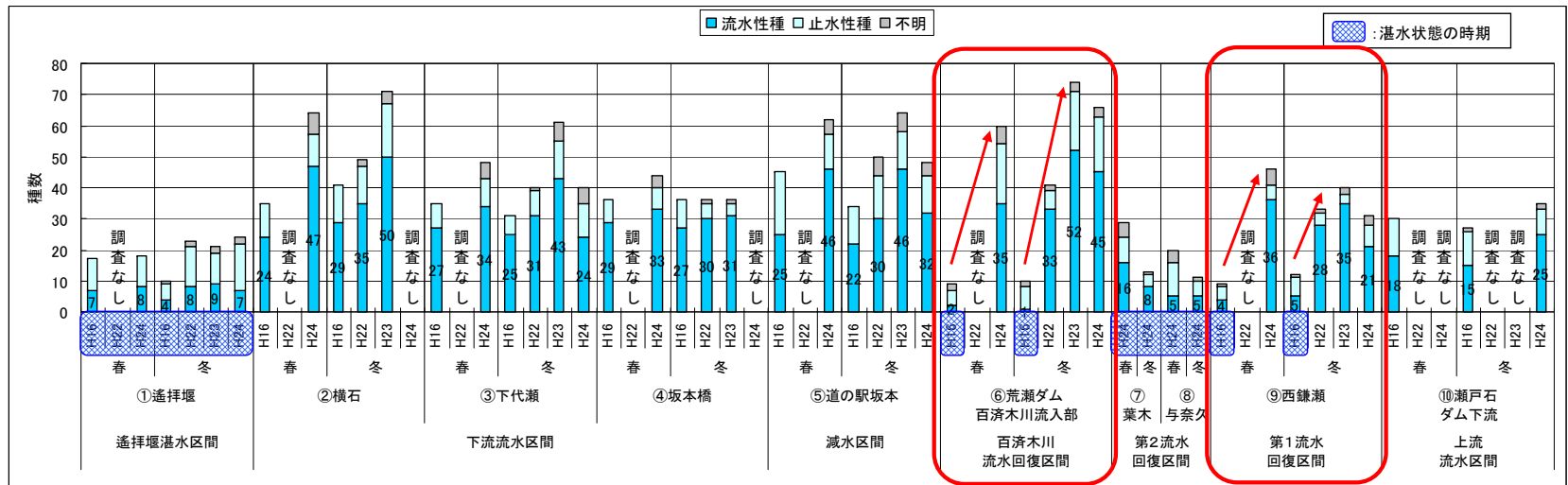


3) 底生動物

【参考資料 I-112～I-124 参照】

評価項目	視点	今年度の調査結果概要	評価概要
経年的な変化状況	全確認種数	・ H16 と H23 以降を比較した場合、「⑥荒瀬ダム百済木川流入部」及び「⑨西鎌瀬」では H23 に著しく増加したが、H24 は明白な変化は認められなかった。	・ H22 年 4 月のゲート開放によって荒瀬ダム上流の第 1 流水回復区間で流水環境に回復し、瀬や淵、水際の浅瀬等が形成され、そのような多様なハビタットに対応して流水性の種が増加してきた。
	流水性種の種数	・ 全確認種数と同様の傾向が見られた。	

流水性種の種数



【用語の解説】

・ **流水性種と止水性種**：流水性種は、河川の瀬を主な生息場とする種。止水性種は、湖沼や水田を主な生息場とする種。荒瀬ダムの撤去によってダム上流域の水位が低下し流速が増すと、流水性種が増加し、止水性種が減少すると考えられる。代表例として、流水性種ではカゲロウ目、カワゲラ目、トビケラ目の大部分の種が、止水性種ではマキガイ綱、ミミズ綱等に含まれる種が挙げられる。